

帯広畜産大学原虫病研究センター共同研究報告書

2022年6月5日

採択番号	2021-共同-20		
研究部門	診断治療研究部門	原虫病研究センター 内共同研究担当教員	菅沼 啓輔
研究課題名	Investigation on the presence of trypanocidal drug resistance used for water buffaloes in the Philippines		
研究代表者	(ふりがな) 氏 名	所属部局等・職名	
	Marvin Villanueva	Philippine Carabao Center, Senior Science Research Specialist	
研究分担者	Claro Mingala	Philippine Carabao Center, Scientist III	
	Gabriel Alexis Tubalinal	Livestock Biotechnology Center, Science Research Specialist II	
	すがぬま けいすけ 菅沼 啓輔	帯広畜産大学原虫病研究センター・先端予防治療学分野・助教	
研究期間	2021年4月1日 ~ 2022年3月31日		
目的・趣旨	フィリピン国内の家畜において、 <i>Trypanosoma evansi</i> 感染症(スーラ病)のアウトブレイクが多数報告され、家畜生産性を低下させる大きな要因となっている。そのため、スーラ病のコントロールはフィリピンにおける畜産業振興のために喫緊の課題となっている。薬剤投与による効率的なスーラ病制御のためには、対象となる地域で流行している <i>T. evansi</i> 株の薬剤感受性の解析が必須である。本研究課題では研究分担者の構築した薬剤感受性解析系を研究代表者の研究室に技術移転させることを目的とした。		
研究経過の概要	COVID-19 の蔓延により研究代表者の研究活動が困難であった。研究代表者の研究再開後のすみやかな実験開始にそなえ、研究分担者は薬剤感受性試験を技術移転するためにトリパノソーマの培養維持に努めた。またフィリピン国から入手したサンプルを用いてトリパノソーマ症感染にかかるリスク因子を探索した。		
研究成果の概要	関連研究の成果として、フィリピンにおけるスイギュウ、山羊およびウシにおける <i>T. evansi</i> の感染状況についての疫学情報を収集した。結果、ボホール島のフィリピンカラバオセンターおよびその周囲で使用されている各種家畜の血液サンプルから <i>T. evansi</i> および <i>T. (Megatrypanum) theileri</i> の遺伝子を検出した。また、これらのトリパノソーマを媒介する吸血性節足動物が多く発生されると推測される雨季に感染率が有意に上昇することから、とくにその時期に薬剤投与などの対策が必要であることが明らかとなった。		
研究成果の発表	Elata A., et al., Molecular detection of animal trypanosomes in different animal species in the Visayas region of the Philippines(論文投稿中)		